

いさーち

日立市教育研究所報 305号
 令和3年9月22日発行
 〒317-8601 日立市助川町1-1-1
 日立市教育研究所長 皆川 渉

夏季教職員研修会実施報告

夏季休業中に行った研修会について報告します。新型コロナウイルス感染症拡大に伴って、「見合わせ」とした研修会もありましたが、延べ340人の先生方にご参加いただきました。今年度は研修内容を精選し、先生方のニーズに合った研修ができるように、企画・運営をしてきました。改めて、ご多用の中ご参加くださった先生方、ありがとうございました。次年度以降も、先生方からいただいた貴重なご意見をもとに、さらに充実した研修会を計画したいと思います。

最後になりましたが、市内の園、小、中、特別支援学校、各教育研究部関係の先生方、そして、御指導御助言を賜りました講師の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

☆ 研修一覧及び参加人数

種別	研修会名	日時	講師	参加人数
1 職歴経験した研修	A1 学級経営研修会 (ライフスキル研修)	開催 見合わせ中	中村 千恵子 <small>(ライオンズクエスト認定講師)</small>	実施見送り
	A2 幼児教育と小学校教育の 接続のための研修会	8/4(水) 9:30~11:50	神永 直美 <small>(茨城大学教員)</small>	59
2 専門性を高める研修	B1 教師力パワーアップ講座① (教育論文)	7/28(水) 9:30~11:40	皆川 渉 <small>(日立市教育研究所長)</small>	12
	B2 教師力パワーアップ講座② (配慮を要する児童生徒への教育)	7/29(木) 10:00~12:00	深谷 佳子 <small>(臨床心理士・公認心理師)</small>	18
	B3 教師力パワーアップ講座③ (プログラミング教育及びICT機器を 活用した授業改善)	8/5(木) 13:30~16:15	中村 めぐみ <small>(つくば市教育委員会 情報担当指導主事)</small>	38
	B4 Q U活用研修会 (小・中学校)	開催 見合わせ中	武子 みち子 <small>(早稲田大学研究開発研究所所属)</small>	実施見送り
3 特別研修	C1 一般教養研修会 (先生の働き方改革)	7/28(水) 13:30~16:20	方波見 真弓 <small>(県庁IT推進担当者)</small>	41
	C2 一般教養研修会 (ネット・ゲーム依存の実態と 予防・対応)	8/2(月) 9:30~11:50	菊池 智之 <small>(県庁情報セキュリティセンター)</small>	34
4 共 催 研 修	D1 幼稚園学級経営研修会	7/21(水) 9:40~12:00	倉橋 久美 <small>(日立市教育委員会指導員)</small> 武藤 享子 <small>(日立特別支援学校)</small>	34
	D2 幼稚園実技研修会	7/26(月) 9:50~11:40	久保 花音 <small>(ダンスインストラクター)</small>	30
	D3 道徳指導者研修会	8/2(月) 14:00~16:00	小川 哲哉 <small>(茨城大学教員)</small>	44
	D4 夏季社会科実技研修会	8/5(木) 9:00~11:30	城石 和秀 <small>(日立市教育委員会指導員)</small> 茨城新聞社NIE事務局	30
	D5 発達障害の理解と支援研修会	開催 見合わせ中	乾 孝之 <small>(比叡城市の教室相談員)</small>	実施見送り
合 計				340

一般教養研修会(先生の働き方改革)
テーマ「自分らしい暮らし方働き方を考える」
講師 方波見真弓 先生(県ダイバーシティ推進センター)

7月28日(水)

1 「ワーク・ライフ・バランス」から働き方について考える

「ワーク・ライフ・バランス」とは、仕事と生活の調和のこと。「仕事を減らす」、「早く帰る」でなく、仕事と私生活のバランスを重視して仕事をしていこう、という考え方で「働き方改革」をしていくことが大事。

2 教職をより魅力的で働きやすい職場に

- ・ 自分の価値観を大切にしたい働き方・暮らし方はできているか。できていなければ、阻害要因は何か。それをなくしていく努力を。
- ・ 年休が取得しやすい雰囲気・人間関係をつくっていく。
- ・ 「働く時間の制約」が出てきている。短時間で成果を出せる職場にしていけることが大事。

3 マンダラチャートの手法による「ワーク・ライフ・バランス」の見直し(グループワーク)

- (1) 真ん中に最終ゴールを記入。
- (2) その周りに最終ゴールを達成するための要素を8つ記入。
- (3) 8つの要素を満たすための行動を8つずつ記入。

(大リーグで活躍中の大谷選手も高校時代に実践した方法)

[できることから実践]

- ・ 計画的に年休を取得。(〇月〇日は、年休を取って□□をしよう。)
- ・ 1人でなく、みんなで取り組む。(〇時には、みんな帰ろう。)
- ・ プライベートの時間に、今から退職後の準備を。(習い事、資格取得等)



完成したマンダラチャート

<参加者の感想>

- ◇ 男性の育休取得1か月や計画年休など、改めて理解することができました。「ワーク・ライフ・バランス」のために何を大切にするか、具体的に何をするか、グループの方々と一緒に楽しく考えることができ、ありがたかったです。
- ◇ グループワークを通して交流を深めることもでき、楽しく活動できました。ますます「働き方改革」が必要となる中で、今の仕事の仕方に満足せず工夫していく必要があるため、今後もこういった研修は必要だと思います。
- ◇ 「働き方改革」=「ワーク・ライフ・バランス」の視点で捉えていくという方波見先生のご講話・マンダラチャートの演習を通して、「働き方改革」の本来の意義を考えることができました。
- ◇ マンダラチャートを用いることで、目標や今すべきことを明確にすることができた。また、グループで協力して行うことで知恵を出し合い、解決の方法を考えることができ、効率よく活動を進めることができた。これからの仕事でも生かせる。今回の研修で、人間関係や情報共有、チームとして目標を設定すること等、大切なことを再確認できた。貴重な時間をありがとうございました。
- ◇ 教育の現場は、「働き方改革」から遠い業種だと思っていたが、研修で取り上げてくれ、新たな気づきを得られた。個人の努力だけでなく、職場のみんなのできることから実行したい。

一般教養研修会(ネット・ゲーム依存の実態と予防・対応)

テーマ「現代の子どもたちとネット・ゲーム依存」

講師 菊池智之 先生(県精神保健福祉センター・相談援助課)

8月2日(月)

1 現代の子どもを取り巻く環境、依存している子どもが抱えているもの・背景

「ネットがあるのが当たり前」、「ゲームはのめり込むもの」という前提で、子どもの支援をしていくことが大切。

ネット・ゲーム利用にばかり目が行くと、本人が抱えている生きづらさや課題に気がつくにくくなってしまう。その子は、「身体、気持ち、学業、経済、対人関係」等の悩みを抱えてはいないか。

2 依存のリスク

ネット・ゲーム依存度のリスクが高い人の特徴

- ・ 友人が少ない、またはいない
- ・ ゲームに肯定的
- ・ ストレス対処能力が低い
- ・ 衝動性が高い

現実社会では周りに相手にされない・いじめられるでも、ネット・ゲームの世界なら...

「いいね!」の数が、自分の価値

3 本人への支援

※ まずは周囲の大人が「共感」を伝えることが大切。

(1) のめり込む背景を調べる。

勉強?対人?挫折? 元々の問題が整理されることで、依存傾向が低減することもある。

(2) ネット・ゲームの時間を視覚化する。

(3) メリットとデメリットを整理する。

	メリット	デメリット
ゲームを続ける	楽しい ストレス解消 嫌なことを忘れられる	勉強時間が減る 睡眠時間が減る 朝起きられない 親から叱られる
ゲームを減らしたりやめたりする	他の事に時間を使える 家族との時間が増える	不安 ストレスがたまる 現実と向き合わなければならない

「アイコ」の話し方

- 1 あいづち(繰り返し)
- 2 いいところをほめる
- 3 心の声を表現

「キ」ケンな話し方

- 1 禁止(否定・非難)
- 2 決めつけ(一方的な指示)
- 3 詰問(問いつめる)

(4) 実行可能なプランを**本人**と立てる。

※ 本人が達成できるスモールステップで。

- ・ 5時間を4時間に。
- ・ 食事中は、スマホ・ゲームを触らない。

依存症が疑われるときは

- ・ 相談機関(精神保健福祉センターなど)
- ・ 医療機関(依存症は病気なので、専門医を受診)

<参加者の感想>

- ◇ 具体的で分かりやすいお話でした。「依存症の人は、溺れそうになっているほど日常が辛い」、「他者との感情の交流がない」など、背景を教えてくださいましたので、ゲームに熱中する児童生徒の内面をしっかりとらえて対応しなければならないことがよくわかりました。
- ◇ ネット・ゲームの「進化」に対応した予防・指導が大事なことと、前提として、子どもの心の居場所づくりや安定した生活を大切にすることが必要だと感じた。
- ◇ ネット・ゲームの世界を知ることで、子どもの立場・目線に立って考えることができた。教育者自身が子どもに歩み寄り、同じ目線に立って少しずつ変えていくことが豊かに過ごせる一歩だと思った。こういった機会があることで、私自身リセットすることができた。「ゲーム依存を否定しない」というところから入り、「そういう考えがあったか」と、違う視点を知りとてもためになった。
- ◇ 保護者に支援する際、自分自身がこの内容に対してどうしていけばよいか悩んでいたところがありました。本日の講義で、たくさんのヒントを得ることができました。
- ◇ 来年度もこの内容の研修は必要。保護者や教職員、これから親になる世代の人たちが知っておかなければならない内容です。

幼児教育と小学校教育の接続のための研修会

テーマ「保幼小の連携・接続に向けて」

講師 神永直美 先生(茨城大学 教授)

8月4日(水)

1 幼児教育をめぐる動向等

令和3年1月 中教審「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

令和3年5月 経済財政諮問会議「スタートプラン」のイメージ

令和3年5月 萩生田文部科学大臣の記者会見

「5歳の1年間は、小学校に上がる前段階として、同じ学びをしていただくことがこれからの義務教育に必要」

令和3年7月 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会

「令和の日本型学校教育」を全ての子供に実現するための幼児教育の質的向上及び小学校教育との円滑な接続について

◎ 知・徳・体を一体で育む「日本型教育」は、世界から高評価。

2 なぜ「幼児教育スタートプラン」が必要なのか

- ・ 学びが育まれる過程が一様になるように。
- ・ 幼児期に育まれた力が、小学校にどうつながっていくかイメージしやすいように。

3 幼児教育は、「環境」を通して行う教育

- ・ 発信は子ども。子どもの「やりたい」を、見つける・受け止める・実現する。
- ・ 主体的・能動的な子どもを育成。

「学びの芽生え」から「自覚的な学び」へ

4 接続のためのポイント

- (1) 幼児教育の「遊び」の捉え方を共通理解する。
- (2) 保育者が幼児教育の学びを明確にし、言語化したり可視化したりして伝える。
- (3) どの園を修了しても、幼児期にふさわしい育ちと学びが得られるようにする。
- (4) どのような学びの過程があったのか思い描けるようにする。
- (5) 「学びの芽生え」は「教科」につながっていくという見通しをもつ。
- (6) 入学期に幼児期の遊びのスタイルを取り入れた「学び」を作る。
- (7) 授業の中の活動に「具体性」や「必然性」を作る。
- (8) 接続期のカリキュラムを保育者と小学校の教師が一緒に作る。

<参加者の感想>

- ◇ これまで小学校と保育園・幼稚園とのつながりは、子どもたちの情報交換に重きが置かれていたように感じていましたが、今回の研修で、1年生として入ってきた子たちを「一番下の学年として見る」のではなく、「幼児教育で身に付けたものを生かす」という考え方で教育していかなければならないと思いました。
- ◇ 保幼小の架け橋プログラムなど、幼児教育のスタートが大切なことは知っていたが、具体的な事例とともに話を聞くことができたので良かったと思いました。保幼小の接続の大切さを全職員共通理解していきたいと思いました。
- ◇ 小学校の先生方と実際に会って、1年生の姿や授業の内容、進め方を聞くことができたのがとても良かった。「発信は子どもから」、決して保育者がやらせるべきではないと、改めて感じた。
- ◇ 神永先生から実践例を聞き、保育者が子どもの言葉や考えを中心に支援しているからのびのびと育つのだろうなと思いました。小学校ではその成長を止めないよう教育することが大切だと感じました。
- ◇ 近隣の園と学校が交流する機会があり、大変ありがたい。毎年行ってほしい。(多数)

教師力パワーアップ講座③

テーマ「プログラミング教育及び ICT 機器を活用した授業改善」

講師 中村めぐみ 先生(つくば市教委 情報担当指導主事) 8月5日(木)

1 なぜ今「プログラミング教育」が必要なのか

- ・ 情報化・グローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展。
- ・ 進化した人工知能(AI)が様々な判断を行ったり、身近なものの働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来(第4次産業革命)が、社会や生活を大きく変えるとの予測。
- ・ 「今後 10~20 年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い。」(マイケル・オズボーン氏)

今、学校で教えていることは、時代が変化したら通用しなくなるのではないか



「AIの急速な進化が、人間の職業を奪うのではないか」といった不安

予測できない変化を前向きに受け止め、主体的に向き合い・関わり合い、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるための力を子どもたちに育む学校教育の実現を目指す。
Society5.0の世界を、子どもたちが生きていけるように!

2 プログラミング教育とは

児童がコンピュータを使ったプログラミングを体験しながら、プログラムの働きや良さについて知り、プログラミング的思考を身に付け、それらを活用して身近な問題を解決しよりよい社会を築こうとする態度を育む教育

→学習の手立て

→知識・技能

→思考力・判断力・表現力

→学びに向かう力・人間性

<アンプラグドでのプログラミング演習> ※アンプラグドとは、一般的には「電力を使わない」ということ。

演習1 ロボットに、「前に進む」、「左を向く」などの命令を与え、ゴールに導く。

演習2 家庭科の調理実習で、「ごはん」、「みそ汁」、「目玉焼き」を同時に完成させて「いただきます」できるよう、調理の手順を考える。

こういった演習をすることでも、プログラミング的思考が高まる。そしてさらに、

【対話的】グループでの相談時、コミュニケーション能力が高まる。

【思考力・判断力】誰もが同じく理解できるような命令を考える。(特別支援教育にも活用)

【表現力】発表時、分かりやすく伝える。

といった力も高まることが期待できる。

3 プログラミング学習をとおして

- ・ プログラミングの仕組みを科学的に理解できる。
- ・ 協働的・対話的に学ぶことができる。
- ・ 教える授業から、子どもとともに学び、子ども同士がともに学ぶ授業になる。

⇒ 主体的・対話的、深い学びの実現につながる。

<参加者の感想>

◇ 子どもがプログラミングを学ぶ理由や、「プログラミングは分解する」ということがわかった。教えて頂いたサイトを見て研修してみようと思った。(動画になっていて、とても分かりやすかったです。)

◇ つくば市の実践例が大変充実していて驚きました。特に低学年は、プログラミング教材に触れる時間を作っていくことも必要だと感じました。

◇ プログラミング的思考=分解思考ということで、特別支援教育の中で普段、支援の手立てとして行っている写真入りの手順表が当てはまる、と思った。知的障害児に、より分かりやすく、ICT機器の適切な活用法やプログラミング実践の難しさとやりがい、将来性を感じた。

◇ 実際のプログラミング学習も大切だが、普段の活動の中でプログラミング的思考を育てていくことが大切ということがよくわかりました。

◇ プログラミング教育の大切さ・意味を、技術科や特定の教員だけでなく、全職員に理解してもらいたい。

ここでは紹介しきれないほど、たくさんの実践事例を中村めぐみ先生に紹介していただきました。

詳しくは、[つくば市総合教育研究所 HP](https://www.tsukuba.ed.jp/~souken/) をご覧ください。(https://www.tsukuba.ed.jp/~souken/)

各研究部研修会（共催研修）

幼稚園学級経営研修会

講師 倉橋久美 指導主事（市教育委員会指導課）
武藤享子 先生（日立特別支援学校）



夏季社会科実技研修会

講師 城石和秀 指導主事（市教育委員会指導課）
茨城新聞社 NIE 事務局



幼稚園実技研修会

講師 久保花音 先生（ダンスインストラクター）



道徳科指導法研修会

講師 小川哲哉 先生（茨城大学教授）



「令和3年度教育課題調査研究会議」

今年度の教育課題調査研究事業は、小・中・特別支援学校から18名の先生方を委嘱し、「小、中プログラミング学習の系統性」「各教科等におけるICTの効果的な活用」の2つの視点から、研究を進めています。

夏休み中の「教育課題調査研究会議」は2回開催されました。

第2回 7月21日(水)

「小学校・特別支援学校」「中学校」「中学校技術家庭科」の3つのグループに分かれ、各校におけるプログラミング学習やICT活用の現状報告を行いました。『Microsoft Teams』や『スカイメニュー』等を使用し、「発表ノートで写真にメモし合う」、「シンプルプレゼンで発表の補助」、「ポジショニングで自分の意見を明確に表現する」、「動画や写真の共有」、「作品制作」、「プログラミング学習の小中連携」等、話題は多岐にわたりました。実際にタブレットを使用しながら様々な機能を試してみるなど、先生方の熱心な姿勢が印象に残った1日でした。



第3回 8月25日(水)～9月3日(金)・オンラインで実施

新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況を鑑み、『Microsoft Teams』を使用してのオンライン実施となりました。各自が作成した「実践案」を読み合い、期間内にオンライン上で意見交換を行いました。

どんな授業が生まれるか、報告書を楽しみにしてください。

ICTやプログラミング教材は、活用すること自体が目的化してしまわないように留意し、教育的効果を考えながら有効に活用することが重要です。

児童生徒が日常的に使用していくこと、先生方の協働による創意工夫を活かしていくことで、今後の様々な可能性が広がっていくと考えます。「子どもたちの学びを止めない」研究にしていきます。ご期待ください。

各学校におかれましても、「こんな実践してみたよ!」等の情報がございましたら、教育研究所までお知らせください。お待ちしております。



校外学習（海岸ハイキング）

6月8日（火）、会瀬初崎海岸にて、校外学習を行いました。多賀教室・日立教室合わせて3名の生徒が参加しました。

午前中は、手作りの釣り竿と磯でとった餌で、釣りをしました。満潮時に岩場の大きな穴に海水が入ってできた水たまりの、海藻で陰になった部分に釣り針を落としてじっと待つこと数秒から数十秒。海藻の下に隠れていた小魚が餌をついばみ、タイミングがいいと見事釣り上げることができます。釣り針に餌をつけるのに手間取ったり、初めてにも関わらず数分のうちに何匹も釣り上げたりと、普段はできない体験に笑顔や驚きの表情があふれていました。

岩の上で水平線を眺めながらお弁当を食べた後、午後は場所を少し南に移して、シーグラス拾いをしました。大小様々なシーグラスや石、貝殻を見つけ、きれいなものや気に入ったものを拾いました。帰りの時刻が迫る中、腰をかがめて熱心に探していました。

日立の自然に触れ、友人のいいところを発見することができた一日となりました。お越しくくださった関係の皆様、ありがとうございました。



編集後記



今年度の夏季教職員研修会は、講師の先生方やご参加の先生方のご理解・ご協力を頂き、感染症対策を講じながら10の研修会を開催することができました。ありがとうございました。

参加された先生方からは、「専門的なお話を聞いて良かった。」「具体的な事例を教えてもらったので、すぐに授業や相談で活用したい。」「他校の先生と課題を共有したり一緒に活動したりできたことが良かった。」「今後も、現場が必要としている内容の研修会開催を望む。」などの感想をいただきました。

今夏、新型コロナや暑さに負けない、日立の先生方の熱さを感じました。研修会の内容について、校内研修等とおして多くの先生方に伝達し、目の前のお子さんへのご指導・支援につなげていただければと願います。

自宅学習期間が続き、オンライン授業の準備等、初めてのことに戸惑い、悩む毎日かと存じます。しかし「オンラインだからこそ」と、試行錯誤された先生方の熱意は、必ずやお子さんたちに届いているものと信じます。輝く瞳、はじける笑顔に会えるその日を楽しみに…。